



村民憲章

- 1. 私たちは 歴史と伝統を大切にしましょう
- 1. 私たちは 美しい自然を守りましょう
- 1. 私たちは 郷土の文化を高めましょう
- 1. 私たちは 豊かな人情を育てましょう
- 1. 私たちは 仕事に誇りを持って働きましょう

March. 2013

No. 618

3

十津川

村報とつかわ

むらづくりのキャッチフレーズ「心身再生の郷」



【特集】P6～P7 村を元気にするために

- トップニュース○十津川村長選挙○十津川人○カメラスケッチ
- 情報広場○国民年金○国保だより○介護保険会計決算報告○人の動き



昴の郷マラソン大会。3年回の部がスタート。



「日本で最も美しい村」
連合に加盟しています

紀伊半島の中央に位置する日本一大きな村。全国初の源泉かけ流し宣言を行った十津川温泉郷、日本有数の長さを誇る谷瀬の吊り橋、神々が宿り日本最古といわれる玉置神社、世界遺産の熊野古道には「にほんの里100選」に選ばれた果無集落など、村には、日本の原風景が残されています。

— 台風12号豪雨災害の経験をもとに —

地域でつくる防災マップ



昨年7月に重里地区の自主防災会が行った避難訓練
避難所の西川第一小学校体育館に多くの人が集まる様子

* 東区

● 困った点

- ① 道路の寸断、電気、水道、電話、テレビなどライフラインが寸断され、情報を入手出来なかったこと。

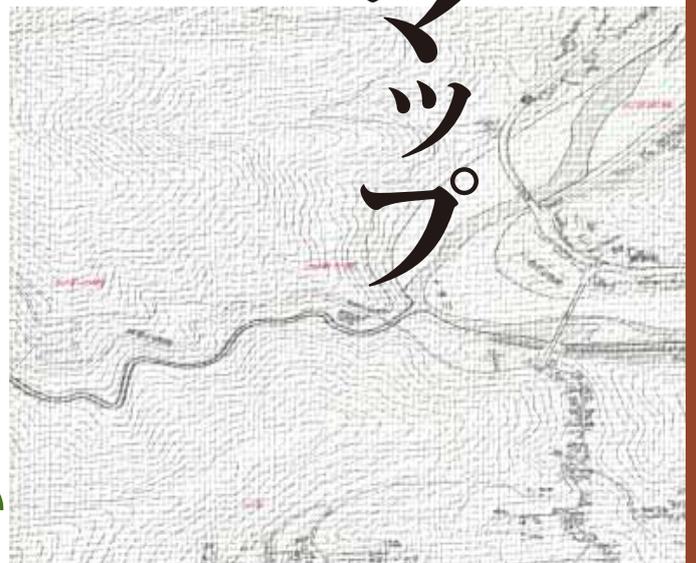
● 良かった点

- ① 食料の備蓄があったことや、救援物資が早く届けられたこと。また、地域の協力があった。

● 課題と対応

- ① 東区は、国道425号から169号までの地区と168号を中心に集落が散在。そのため、防災関係の体制もかなり異なってくる。森林の崩壊、橋の落橋で道路は寸断されたが、住民が連携し人災はなかった。
- ② 個人情報の関係もあるが、大字ごとの世帯別人口の調査は必要と思われる。
- ③ 安否確認の伝達など、自主防災組織の中で作った組織図を基に、どういったかたちで集計して救援要請に繋げていくかが課題。
- ④ 東区には避難場所が10か所あるが、一次避難所が8か所、残り2か所は土砂災害警戒区域のため使用出来ない。8か所のうち耐震性のある2か所をどのように利用していくかが課題。

先月号に引き続き、1月14日に住民ホールで行われた防災研修会の内容をご紹介します。
防災マップづくりを通して見えてきた地域ごとの課題や取り組み。
今月は、東区、四村区、西川区の内容を掲載します。





1月14日の防災研修会
地域の白地図に、危険箇所や避難ルートなどを記入

* 西川区

● 困った点

- ① 電気や電話、道路の不通で情報が入らない。
- ② 避難所や避難経路の安全性に不安。
- ③ 復旧作業にあたる重機の燃料が不足。

● 良かった点

- ① 食料を地域の住民で分け合った。
- ② 要援護者がすぐに避難。

● 課題と対応

- ① 西川方面は大畑瀨が越流し、しばらく道路が寸断。また、迫西川のヘリポートまでの間で通行止めとなり、ヘリからの物資は、一輪車などで運搬するしかなかった。
- ② 地域内の安否確認は、各地区の自主防災組織の機能を発揮して、大字ごとの安否確認、そして西川区の安否確認に繋げていきたい。連絡体制は、大字ごとに配備している衛星携帯電話を活用し、連絡体制を整えていきたい。
- ③ 要援護者の移送体制については、高齢者が大変多く、誰がどの要援護者を支援するのか大変難しい問題。
- ④ 停電が食糧の保存や医療機器に支障をきたすため、今後、小水力発電など集落ごとの電力確保の検討も必要。

* 四村区

● 困った点

- ① 避難所がない。避難者の人数、氏名などの把握ができない。
- ② 道路が寸断され孤立、迂回路も決壊。
- ③ ダムの水位が旧平谷小学校のプールまで上昇。住民が恐怖心を覚えた。

● 良かった点

- ① 地域の協力、まとまりが生まれた。自衛隊には大変お世話になった。

● 課題と対応

- ① 四村区は人口が密集していて、ダム湖の増水や山の崩壊による危険性がある集落が点在。そのため、その両面で避難の考慮が必要。
- ② ダムの運用について奈良県、ダム会社に対して、安全な工法を講じてもらうことが大切。
- ③ 要援護者は、消防団で安全な場所に誘導していただいた。
- ④ 今後、多くの人が入れる避難場所の確保が課題。
- ⑤ 各大字に配備している衛星携帯電話の有効活用を図りながら避難訓練における誘導方法を検討していきたい。自主防災組織で訓練を重ねて行くことが大切。

トップ ニュース

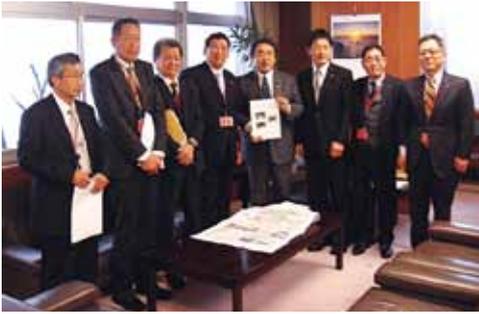
村長の動きや方針を紹介。村政の重要施策などホットな情報を掲載します。

国道168号

『地域高規格道路五條新宮道路』の 1車線区間解消を！

1月21日から22日まで、国道168号整備促進に係る協議会※1が、各県選出国會議員や国土交通省に対し、野尻から川津間、上野地(小栗栖から旭口)、五條市大塔町阪本の3区間の国道改良を、来年度から国で新規事業化するよう要望しました。

国道168号五條新宮間は、紀伊半島アンカールート(大規模災害時



赤澤国土交通大臣政務官に要望



国土交通省 菊川技監に要望

の緊急輸送道路)に指定されていますが、現在改良事業中の区間がすべて整備されたとしても、まだ1車線区間が6キロに渡って残ります。また、すれ違いが困難な箇所も解消していかなければいけません。

いつ発生するかも分からない大規模災害に備えるため、国に対し地域が必要としている道路を、近隣市町村と連携し、今後も要望を続けていきます。

※1 国道168号(五條・新宮間)整備促進協議会<会長 五條市長 太田好紀>
国道168号(十津川～本宮間)整備促進協議会<会長 十津川村長 更谷慈禧>
内吉野土木協議会<会長 野迫川村長 角谷喜一郎>

国道169号

『奥漣道路(Ⅱ期)』の 早期供用開始を！

1月23日、国道169号直轄工事促進委員会(会長 和歌山県知事、副会長 十津川村長)は、各県選出国會議員や国土交通省に対し、平成27年秋に開かれる「紀の国わかやま国体」までに、奥漣道路Ⅱ期工事(5.2km)を完了、供用開始するよう要望しました。

国道169号は、竹筒地区を通っていて、奥漣道路(Ⅱ期)が完成すれば、大字神下から竹筒間でも大幅な時間短縮が期待されます。



和歌山県新宮市熊野川町玉置口

投票時間 **第1投票区** 午前7時～午後7時
第2投票区～第36投票区
午前7時～午後6時



4月21日は、 十津川村長選挙 の投票日

(告示日：4月16日)

十津川村長選挙の投票が4月21日(日)に行われます。
私たちが、村に対して意思表示できる機会を逃さず、投票日には主権者の誇りを持って、棄権することなく投票しましょう。

▼投票できる人

今回の選挙で投票できるのは、登録基準日に本村の選挙人名簿に登録される次の要件を備えた人です。

※村長選挙

登録基準日 4月15日
年齢要件 平成5年4月22日以前に生まれた人

▼投票所入場券

選挙人名簿に登録されている人には、投票所入場券を郵送します。投票所入場券が届かない場合や紛失された場合でも選挙人名簿に登録されていれば投票できますので、投票所の係員に申し出てください。

▼期日前投票

投票日に仕事や旅行、病気などの理由で投票所に行けない人は、期日前投票をすることができます。

なお、期日前投票をする時点で選挙人名簿に登録されている20歳未満の人は、不在者投票の手続によって投票を行うってください。

※期日前投票の期間

4月17日～20日

村長選挙

※期日前投票の場所及び時間

役場・第1会議室

午前8時30分～午後8時

▼不在者投票

十津川村以外の市町村に滞在中の人や病院、老人ホームなどの指定施設に入院・入所中の人は、不在者投票の投票用紙などを請求のうえ、当該指定施設などで投票できます。

不在者投票用紙は、告示日前に請求できますが、投票は、告示日の翌日以降になります。

▼郵便等による投票

身体障害者手帳や戦傷病者手帳の所持及び介護保険法上の要介護者で、一定の要件に該当する人は、あらかじめ村選挙管理委員会から「郵便等投票証明書」の交付を受けて、所定の手続を行い、在宅投票をすることができます。

証明書の交付を受けている人は、告示日まで投票用紙などの請求をしてください。新たに郵便等投票証明書の交付を受ける人は、お早めに申請の手続きをしてください。

詳しい内容や要件に該当するかどうかは、選挙管理委員会にお問い合わせください。

▼選挙についてのお問い合わせ

十津川村選挙管理委員会

☎0746(62)0001

村を元気にするために

〜地域雇用創造協議会〜 第27回(最終回)



地域雇用創造協議会は、3月末日をもって実質2年5か月にわたる事業を終了します。たくさんのみなさんに応援していただき、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今回、今までの取り組みや成果物をご紹介させていただきます、最後のご挨拶とさせていただきます。

観光を基軸とした交流・産業を創出する村づくり

協議会では、「観光プログラムの開発事業」や「地域資源を活用した新商品開発とそれに携われる人材育成セミナー」を行ってきました。

▼観光プログラム開発事業

この事業では、まず、村の観光資源が村外の方からどう見られているのかを調査しました。村の認知度はほぼ100%でしたが、村のイメージは

山、川、自然がいっぱいという漠然としたものでした。

そこで、源泉かけ流しの温泉や世界遺産の道など、ここにしかない資源を活用し、ここでしか体験できないトレッキングツアーを企画しました。

●生きた化石と呼ばれるトガサワラ(村では力ワキと呼ばれます)を見学し、棚田跡、集落跡の石垣を近くで感じる。

●修験者が修行した鎖場にチャレンジする。

●村に伝わる物語の舞台を巡りながら郷土食「めはり寿司」を作る。



道普請ツアーで古道を整備する様子



●タケノコを採ってそのまま温泉で湯がいて食べる。そうだった自然体験ツアーを行いました。

また、台風で被害を受けた古道を整備するため企画した「道普請ツアー」は、総勢650人が参加し、450人の宿泊につながるなど、十津川ファンを創出する観光プログラムとして定着しました。

今後、定期的、継続的にプログラムを運営することで収益を得られる体制づくりを進め、観光を基軸にした交流の活性につながればと思います。

▼地域ブランド開発事業

この事業は、新商品開発を行いながら村の特産品のブランド化を進めました。

一つ目は、山あいに住む十津川人だ



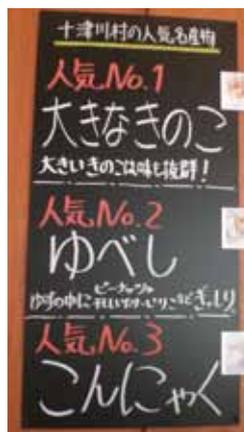
温泉ぷりんシリーズ

からこそ自然の恵みを自然のままにただくスタイルや、野菜、お茶などを無農薬で育てる十津川らしさを村外の方に伝えるため、「山あり、川あり、笑顔あり」をキャッチフレーズにした十津川産品の冊子を作りました。

二つ目は、特産品の開発事業から十津川温泉ぷりんシリーズ「ハーブと野菜・果物のジャム」が生まれました。

温泉ぷりんは、とつワンマーケットで試験販売を行い、通算1000個以上の販売実績があります。ジャムは、休耕地で試験栽培をしているハーブを活用し、やっとな商品化にこぎつけました。これから試験販売を行っていきます。

POP広告セミナーを受けて実際に商品の横に掲げられているPOP広告



「売る」の工夫

温泉ぷりん、ジャムともに心掛けてきたのが「売る」ということ。商品開発や容器選定、パッケージデザインをいっぺん整備しても「売る」ということがなければ収益も得られず事業が存続しません。とつワンマーケットで村民のみなさんと観光客に販売し、村外にはアグリフードエキスポというイベントで、小売り、卸業者、通販サイト業者に対して宣伝を行いました。その中で、ジャムの共同開発を希望されたり、結婚式のギフトにしたいと要望されたりと想像していなかったことがありました。「売る」カタチは



温泉ぷりんをおいしそうに頬張る様子

いろいろあり、それにもなつて「創る」カタチもいろいろできてくることに気づかされました。

「売る」ということは新商品に限ったことではなく、既存商品についても新たな風穴をあけることになりました。

例えば柿です。柿は流通全体の96%が中国産で、国産はわずか4%です。しかし、店頭では国産はその産地名が表記されています。十津川産の柿を十津川産のものとして流通させることを推進しながら、国産柿のニーズのある業者を開拓することもできました。

協議会の取り組みから見えてきた観光、特産品の新商品開発で大事なポイントは、「売る」と「創る」をセットで進めるといことです。とにかく「売ってみる」ことです。そうすれば、いろんなことが見えてきます。もつと十津川のいいところ、食べ物、文化、気候、風土、人情、そして人の笑顔が添えられたものを村外人は求めています。

はじめは躊躇するかもしれませんが、ぜひ勇気をもってワクワクして「売る」ことにチャレンジしてもらいたいです。



村にあるものを大切に、新たなものを創りだしていく

「村を元気にするお手伝い」を合言葉に奔走！

●きつかけは…

「村のために」

岡：生まれ育った村のためになれ
ば」と思い応募しました。

和田：私を含めて、村で育った同級
生は、ほとんどが村外に出て就職
していました。「村に帰りたくても
仕事がない」という会話を何度も
耳にしました。「仕事づくりの仕事
ができる」と聞き、協議会の採用試
験に応募しました。

北村：これまでは、地域情報誌の広
報媒体を通して地域の応援に携
わってきましたが、実際に地域に
入り、地域づくりや雇用づくりに
携わりたいと思ったのがきつかけ
です。

太田：村が村外から協議会の職員
を募集していることをインター
ネットで知りました。協議会に採
用される前から、村を何度か訪れ
ていて、「村の役に立てることがで
きれば」という思いで応募したの
が、きつかけです。



平成22年10月19日 奈良新聞

●「雇用創造」の
高いハードル

「雇用創造」という名前が先行
し、協議会に向けられる期待は高
く、スタートからプレッシャーと責
任を強く感じました。

どのようにすれば協議会の事業
が理解され、村を元気にするお手
伝いができるのか。事業の方向性
を見つけるのに時間がかかってし
まい、村の人たちから「協議会は何
を行っているのかわからない」とい
う声ができるなど、事業を理解いた
だくまでに高いハードルがありま
した。

求められていることや、実践す
ることの難しさをあらためて感じ
ました。

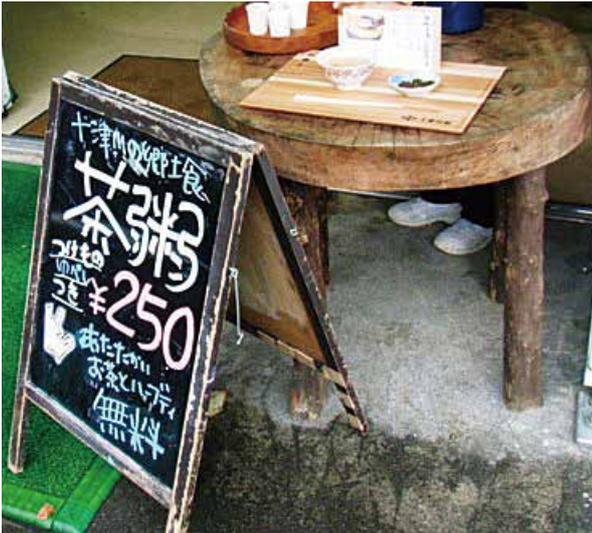
「村を元気にするために」

十津川村

地域雇用創造協議会

平成22年7月に発足し、この3月末で活動が終了する「地域雇用創造協議会」。

2年5か月にわたり取り組んできた活動を振り返り、協議会メンバーにお話しを聞きました。



「茶がゆ」も立派な郷土食」
協議会では、村に昔から伝わり食べられてきた郷土食にも着目し、村の食文化として「ゆべし」や「こんにやく」、「茶がゆ」なども村外の方々中心に発信。
村に「あたりまえ」にあるものが、観光資源になることを、改めて実証。



温泉ぷりんの誕生につながったゆべしこんにやくゼリー

●**試行錯誤から見えてきた可能性。「温泉ぷりん」の誕生は、そのひとつ**

そんな中、加工品開発事業から、「村の中にあるものを使って」「獣害に強いこんにやく」「休耕地の活用」をポイントにした試作品「ゆべしこんにやくゼリー」が生まれました。試食した方から「こんにやくゼリーの上に載っているサツマイモのクリームがおいしい」という声をいただき、そこから材料をサツマイモに絞り、それに温泉を活用した加工品作りを開始しました。

そうして誕生したのが、温泉で蒸した「温泉ぷりん」です。今では、種類も豊富になり、「畑で育ったサツマイモ」「村内の豆腐店から直入の豆乳」「ゆべしには不向きな形のわるい柚子」「田花観光協会長から紹介いただいた紫イモ」村で

お馴染み番茶」と、シリーズが生まれました。

やってみたら生まれた加工品。十津川にしかないもので作ったぷりんだからこそ、村内外にファンが増えていきました。

●**とにかく「売る」ことにチャレンジしてほしい。何かが見えてくる**

「売る」ということを続けていくことが大切です。これまで、村では「作る」ことは好きでも「売る」ことは苦手という人がほとんどでした。

心の内にある「おもてなしの心」をもっと前面に出して、「売る」ことにチャレンジし続けてほしいと思います。最後に、みなさんにお贈りしたい言葉、

「とにかくやってみる」ことが始まりです。

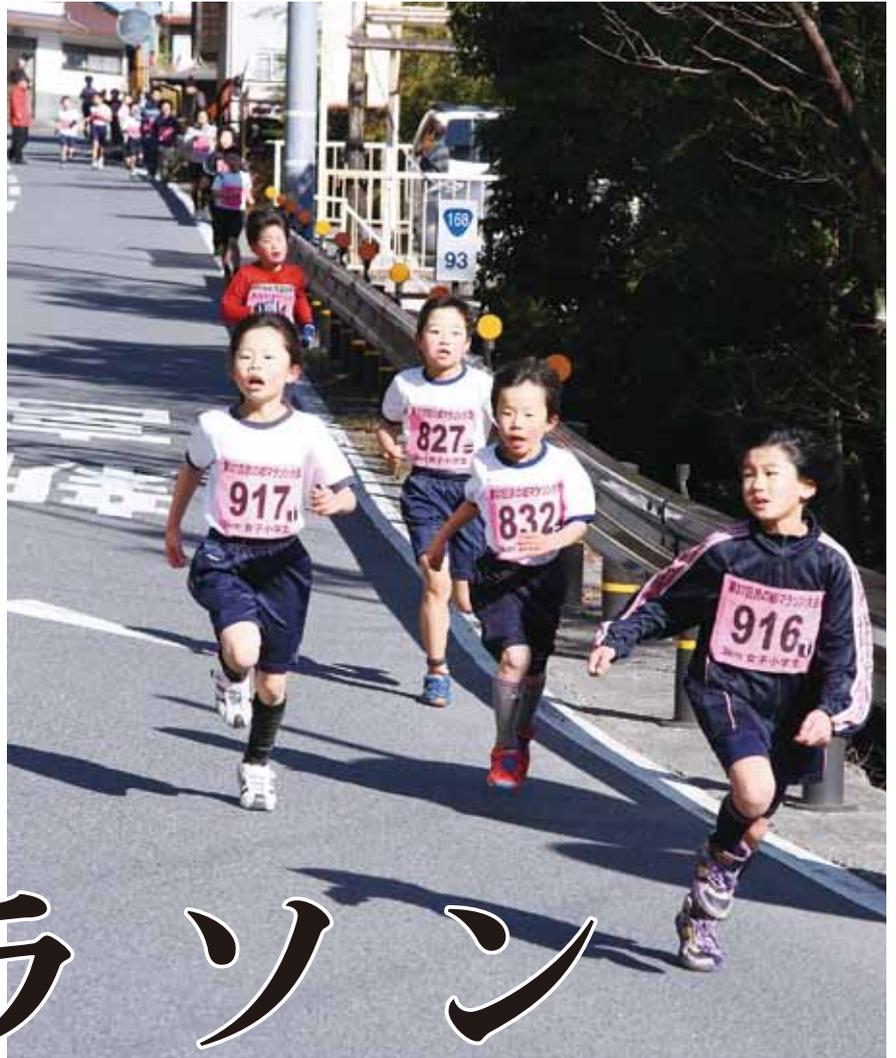
十津川人

地域雇用創造協議会

北村啓司・きたむらけいじ(大阪)
太田来美・おおたらみ(大阪)
和田有加・わだゆか(十津川)
岡太容子・おかたよこ(十津川)
平成22年7月に地域雇用創造協議会発足。これまでの主な取り組みに、特産品開発セミナーなど各種セミナーの開催、休耕地を活用したバジル栽培、紀伊半島大水害で被災した世界遺産の古道を修復する道普請ツアー、村内外に向けて村の食文化を発信、村にある資源を活用した温泉ぷりんやハーブジャムの加工品開発がある。



3キロを元気に駆け抜ける子どもたち
男子ハーフ1部で優勝した上平さん



昂 マ ラ ソ ン

400人のランナーが
冬の十津川温泉郷を
駆け抜ける

1月27日、昂の郷で第37回
昂の郷マラソン大会が開催さ
れました。

昨年に引き続き、高石とも
やさんをゲストランナーに迎
え、村内外から約400人の
ランナーが参加しました。

会場では、温かいうどんや
カレーが販売され、レース後
は、多くのランナーのみなさん
が源泉かけ流しの温泉で汗を
流し疲れを癒していました。



男子3キロ中学生の部表彰

入賞者・記録 (敬称略)

▼男子ハーフ1部(中学生から39歳まで)

- 1位 上平 修司(愛知) 1時間9分13秒
- 2位 山田 優雅(奈良) 1時間9分39秒
- 3位 大野 英星(奈良) 1時間15分46秒
- 4位 中岡 良路(兵庫) 1時間16分18秒
- 5位 松本 隼人(大阪) 1時間18分56秒
- 6位 上平 耕司(大阪) 1時間20分16秒



小さな子どもから大人まで参加
した健康ジョギング



ゲストランナーの高石ともやさん

▼男子ハーフ2部(40歳から59歳まで)

- 1位 畠山 晴樹(奈良) 1時間24分3秒
- 2位 寺田ひろ志(大阪) 1時間26分21秒
- 3位 杉下 博俊(三重) 1時間26分26秒
- 4位 長岡 幸二(和歌山) 1時間28分5秒
- 5位 入江 賢(京都) 1時間29分9秒
- 6位 中元五一郎(奈良) 1時間30分1秒

▼女子ハーフ1部(中学生から39歳まで)

- 1位 磯田 玲茄(奈良) 1時間33分45秒
- 2位 磯田 浩弥(奈良) 1時間33分49秒
- 3位 小畑 美聡(大阪) 1時間38分32秒
- 4位 中野紗詠子(大阪) 1時間39分34秒
- 5位 松田 美佐(十津川) 1時間59分13秒
- 6位 西田枝里子(兵庫) 1時間59分53秒

▼男子ハーフ3部(60歳以上)

- 1位 蛭原 和弘(奈良) 1時間26分9秒
- 2位 小西 健雄(奈良) 1時間26分17秒
- 3位 杉野 喜朗(奈良) 1時間33分23秒
- 4位 岡田 盛助(大阪) 1時間35分42秒
- 5位 木村 文男(愛知) 1時間37分18秒
- 6位 田中 隆夫(岐阜) 1時間38分40秒

▼女子ハーフ2部(40歳以上)

- 1位 岩城ひろみ(愛知) 1時間44分27秒
- 2位 原田 忍(大阪) 1時間50分30秒
- 3位 西村美佐代(大阪) 1時間58分6秒
- 4位 立石 佳子(大阪) 1時間58分51秒
- 5位 不動 光子(大阪) 2時間8分27秒
- 6位 太田 保子(滋賀) 2時間10分2秒

▼男子10キロ1部(中学生から39歳まで)

- 1位 笠井 俊吾(和歌山) 39分25秒
- 2位 藤原 哲(大阪) 40分56秒
- 3位 西岡 真哉(大阪) 40分56秒
- 4位 倉西 崇明(奈良) 41分10秒
- 5位 西岡 佑惟(十津川) 41分58秒
- 6位 辻村 拓己(大阪) 42分56秒

▼男子10キロ2部(40歳以上)

- 1位 小林 敦志(奈良) 39分33秒
- 2位 吉川 宏司(愛知) 41分37秒
- 3位 上岡 豊(大阪) 45分44秒
- 4位 橋谷 知明(大阪) 46分5秒
- 5位 松島 俊裕(三重) 46分52秒
- 6位 水野 清文(奈良) 47分3秒

▼男子3キロ(中学生)

- 1位 下村 悠大(十津川) 10分21秒
- 2位 久保見裕平(十津川) 10分38秒
- 3位 玉置 大勢(十津川) 11分36秒
- 4位 中村 有志(十津川) 12分10秒
- 5位 横山 健斗(十津川) 12分27秒
- 6位 田邊 健(十津川) 12分56秒

▼女子3キロ(中学生)

- 1位 伊藤 美空(和歌山) 11分48秒
- 2位 増谷 美穂(十津川) 12分38秒
- 3位 松葉 璃奈(奈良) 13分44秒
- 4位 深瀬えの(十津川) 13分55秒

▼女子10キロ1部(中学生から39歳まで)

- 1位 福島 美穂(兵庫) 1時間0分11秒
- 2位 河本 冴月(大阪) 1時間0分22秒
- 3位 上川裕里加(大阪) 1時間2分24秒
- 4位 倉西 麻衣(奈良) 1時間4分1秒
- 5位 藤中 睦子(奈良) 1時間4分11秒
- 6位 山下 雅美(京都) 1時間4分54秒

▼男子3キロ(小学生)

- 1位 原田 洋旭(大阪) 11分41秒
- 2位 浦 舜(十津川) 12分22秒
- 3位 谷向 秀斗(十津川) 12分30秒
- 4位 河野 陽太(十津川) 12分32秒
- 5位 千葉 輝斗(十津川) 13分16秒
- 6位 乾 琳太郎(十津川) 13分17秒

▼女子10キロ2部(40歳以上)

- 1位 田中 美代(和歌山) 44分39秒
- 2位 松村 政子(大阪) 45分9秒
- 3位 北村由起子(奈良) 47分24秒
- 4位 大谷 純子(十津川) 48分49秒
- 5位 岩崎 純子(大阪) 50分46秒
- 6位 下村 倫代(十津川) 51分15秒

▼女子3キロ(小学生)

- 1位 北谷 采乃(奈良) 11分41秒
- 2位 川内 舞依(奈良) 11分41秒
- 3位 沢田 有希(奈良) 11分42秒
- 4位 新田 紗穂(奈良) 12分3秒
- 5位 吉川さくら(奈良) 13分6秒
- 6位 東山 佑季(奈良) 13分13秒



- ①十津川産ヒノキが天井に使われている武道場内
- ②落成記念式典で行われた剣道の親善試合
- ③十津川産ヒノキを使って作られた学習机と椅子



(写真: 新十津川町提供)

新十津川中学校武道場 村のヒノキを天井などに！

北海道新十津川町では、1973年に建設された尚武館が老朽化したため、昨年末、新たに新十津川中学校に、剣道専用武道場の「尚武館」を新設しました。

平屋建て760平方メートルの同校武道場「尚武館」は、館内の内壁に町内産のトドマツ4立方メートル、天井などに

は、十津川産ヒノキ約20立方メートルが使用されました。

2月10日には、その武道場の落成式が行われ、更谷村長や中津議長を始め、剣道関係者が出席しました。

記念式典では、剣道の交流試合も行われ、両町村の剣士が新道場で剣を交え、親睦を深めました。

村は、この記念式に合わせて、十津川産材のケヤキで作った同館正面看板や、ヒノキで作った学習机と椅子80セットを記念品として町に贈りました。

新十津川町の青年が訪問

2月9日、十津川村訪問研修で新十津川町青年協議会から4人の研修生が来村しました。

2日間にわたり行われた研修では、世界遺産の小辺路を歩いて体験し、また21世紀の森・紀伊半島森林植物公園を訪れ、水害慰霊碑に手を合わせました。

また、両町村青年同士の意見交換会などで相互の親睦を深めました。

▼研修生(敬称略)

- (団 長) 松井 則親
- (副団長) 小松田 諒
- (会 計) 箕口さやか
- (記 録) 山田ひかる
- (引 率) 山下 朋之



明治に総廃寺となった 53寺院を刻み、住職慰霊碑建立

明治まで十津川郷内にあった53寺院の住職の慰霊を奉った「住職慰霊碑」が昨秋、大字野尻に、岩崎弘司さんと桂孝次さんによって建立されました。

「住職の碑は、奉られている地域もあるが、ほとんどが草むらに埋もれている状態だった。廃仏毀釈はいぶつきとなるまで、地域に奉仕されてきた住職の御霊を慰霊したい」

と、発起人の一人、大字野尻の岩崎弘司さんは話されました。

建立に合わせて、昨年11月23日に慰霊碑前で住職慰霊祭が行われ、多くの人が献花に訪れました。

岩崎さんは、「毎年6月30日に大字平谷で行われている住職慰霊祭に続き、毎秋、慰霊碑前で慰霊祭を続けたい」と抱負を語ってくれました。



国道から岩村橋を渡ると左手に見えてくる「十津川郷住職慰霊碑」。すぐそばまで車で行くことができます。
(大字野尻地内)

山を守り 森林林業の再生を

2月16日、橿原市曲川町のイオンモール橿原で森林・林業の再生などをテーマに「フォーラム十津川村」を開きました。更谷村長が、6次産業を目指した森林林業再生と水害からの復興をテーマに講演しました。また、映画作家の河瀬直美さんから「いつも先人を想い、村の復興を目指している村の人々を、これからも応援したい」と講演いただきました。



講演する村長



河瀬直美さん

長野県で

スキー研修

2月15日から17日まで、長野県菅平で第19回村子ども会スキー研修会が行われ、小学5・6年生35人が参加しました。

初めは慣れない雪上で、動きにくいスキー板に悪戦苦闘しながらも、徐々にうまく滑れるようになり、大きな歓声を上げていました。





診療情報

★土曜診療日★

受付は8:30～11:15です。

小原診療所	
3月16日	第3週
4月6日	第1週
4月20日	第3週

★整形外科診療★

月 日	診療所
3月21日午前	小原診療所
4月4日午前	小原診療所
4月4日午後	上野地診療所
4月25日午前	小原診療所

台風12号豪雨災害の あなたの記憶を記録誌にしてみませんか？

平成23年9月に紀伊半島を襲った台風12号豪雨災害。その被害を後世に伝え、教訓を将来に渡って村づくりに活かしていくため、村では、平成25年度に災害記録誌の作成を予定しています。



各地域で起こった災害の状況やそのときの心境など投稿いただける人を広く募集しています。

(写真、体験談などの投稿でもかまいません)

平成23年台風12号豪雨災害で崩落した
大字桑畑地内の国道168号

☎総務課 ☎0746(62)0001

平成25年度 奈良県警察官採用試験

☎奈良県警察本部警務課採用係 ☎0120(351)204
五條警察署十津川警察庁舎 ☎0746(63)0110

試験職種	採用予定人員	採用予定日	受験資格	受付期間
警察官A	男性75人程度	平成25年10月1日 または 平成26年4月1日	昭和58年4月2日以降に生まれた人で、学校教育法による大学(短期大学を除く)を卒業した人または平成26年3月末日までに卒業見込みの人	【郵送・持参】 3月1日(金)～4月19日(金)
	女性7人程度	平成26年4月1日		【インターネット】 3月1日(金)～4月15日(月)

【1次試験】種目:教養・論文・体力・口述試験/期日:5月12日(日)ほか/会場:県立二階堂高校ほか
【2次試験】種目:身体・適性検査・口述試験/期日:7月4日(木)～7月31日(水)のうち指定する日

☑「農産物加工品の講習会」を開催

2月14日、谷瀬公会堂で、内吉野保健所と農業総合センターから講師を招き、加工品の衛生管理や村内で多く作られている「タカナ」の漬物を作る際の注意事項について講習会を開きました。

参加者から活発な質問が飛び交い、充実した講習会となりました。今後、十津川でも多くの加工品が誕生することが期待されます。



☑五條消防署十津川分署だより

1月18日、西川第二小学校で避難訓練を実施し、生徒たちが水消火器の取り扱いを体験しました。

また、2月6日と7日に、十津川中学校2年生の下村悠大さんと久保見裕平さんが、職場体験で十津川分署を訪れ、消防の任務などの勉強、訓練礼式、消火訓練、空気呼吸器着装訓練、救助訓練、救急訓練などを体験しました。



職場体験で救助訓練のロープ渡過を体験

— 庁 外 —

衛生センター 63-0391 し尿処理場 63-0291
小原診療所 63-0040 上野地診療所 68-0207
歴史民俗資料館 62-0137 体育文化センター 63-0067

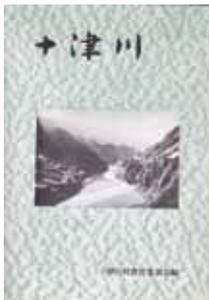
観光協会 63-0200 森林館(古ル野) 62-0567
泉湯 62-0090 滝の湯 62-0400
温泉プール 64-0762 高森の郷 64-1800
北部保健センター 68-0017 森林組合 64-0301
十津川警察庁舎 63-0110 五條消防十津川分署 64-1190

— 役場以外 —

道の駅十津川郷 63-0003
庵の湯 64-1100
社会福祉協議会 64-0666
商工会 62-0132

読書のススメ

手にとってページをめくるワクワク感、声を出して参加する朗読会、人から伝え聞く想像の世界、五感で親しみさまざまな『読書のススメ』。今月からみなさんに少しでも「本の世界」をお届けします。本好きな方もそうでない方も、ご一緒にのぞいてみませんか。



▼「十津川」読本

村誌「十津川」の副読本として昭和36年に生まれた本で、郷土の歴史・文化・自然・産業などがコンパクトに収められています。神武天皇を案内した八咫鳥が、実は十津川の人物だったという伝説。日本史上の人物、天武天皇、後醍醐天皇、徳川家康と十津川郷土の関りは？本誌は、歴史民俗資料館で閲覧・貸し出しできます。

▼レッドデータガール(萩原規子・著 角川文庫) 主人公は十津川村?出身の少女

世界遺産の玉倉神社に住む主人公の鈴原和泉子はふもとの粟谷中学校の3年生。両親と離れ、神社の宮司である祖父の元で育ったレッドデータ(絶滅危惧種)の少女。お下げ髪に赤い縁の眼鏡。極度の人見知りで引っ込み思案。スポーツはどんな種目も不得意。コンピュータは原因不明のフリーズを起こし、携帯電話は数か月で壊れてしまう。「姫神」と呼ばれる存在に時々憑依され、お下げ髪は実は封印のため。世界遺産、玉倉神社、粟谷中学校、外津川高校。十津川村が舞台ともいわれる現代ファンタジーを一度読んでみませんか。



(C) 2013 萩原規子・角川書店/「RDG」製作委員会

- ① 4月3日からTVアニメ放送開始予定
- ② 80万部を超える大人気シリーズ。1巻から4巻好評発売中

☑がん患者サロンよしのを開催します

県内に居住されているがん患者やその家族同士が悩みや不安を語り合う場です。参加費は無料ですので、お気軽にお申し込みください。

☎ 3月22日(金)13:30～15:30

📍 吉野保健所 2階 大会議室

📍 吉野保健所健康増進課 ☎0747(52)7259

☑農地の管理を適切に

十津川村農業委員会では、農地が適切に管理されているか、また、違反転用されている農地がないかなどを調べるため、農地法第30条に基づいて、昨年10月から11月に村内の農地利用状況調査を行いました。

シカやイノシシなどの鳥獣による農作物被害に加え、高齢化などで農業を行なうのは大変な状況ですが、村内各地を調査すると、休耕している田や畑の多くが、きれいに草刈りされ適切に管理されていました。

農地法では、農地の権利を有する者の責務として、農地の管理、効率的な利用の確保が求められています。また、耕作放棄の農地は、適切に管理するよう指導されることとなります。

この他、農地の売買や貸し借り、転用(田や畑を宅地などにすること)などは、農業委員会や知事の許可が必要です。

なお、耕作放棄地をお持ちの方は、農地を新たに購入したり、借り受けたりすることは許可されませんのでご注意ください。詳しくは、下記までお問い合わせください。

📍 農業委員会事務局(農林課内) ☎0746(62)0005





「ねんきん定期便」の 節目年齢が変わります



れています。

平成25年度中に58歳

または59歳になる人

●昭和29年4月2日～

昭和30年4月1日生まれの人

平成25年度中に59歳になる昭和29年4月2日から昭和30年4月1日までに生まれた人は、平成24年度中の誕生日である58歳時に封書の「ねんきん定期便」が送付されているため、平成25年度中の誕生日には、封書ではなくハガキの「ねんきん定期便」が送付されます。

●昭和30年4月2日～

昭和31年4月1日生まれの人

平成26年度中に59歳になる昭和30年4月2日から昭和31年4月1日までに生まれた人は、平成26年度中の誕生日に封書の「ねんきん定期便」が送付されます。

日本年金機構では、毎年、国民一人ひとりに、年金加入記録を確認するとともに、年金制度に対する理解を深めることを目的として「ねんきん定期便」を送付しています。

な内容が記載されています。

●50歳未満の人

- ・年金加入期間
- ・加入実績に応じた年金額
- ・保険料納付額
- ・最近の月別状況

●50歳以上の人

- ・年金加入期間
- ・老齢年金の見込額
- ・保険料納付額
- ・最近の月別状況

※すでに年金を受給している人には老齢年金の見込額は知らされていません。

一方、35歳、45歳および58歳の節目年齢の人には、封書の「ねんきん定期便」が送付され、次のよう

な内容が記載されています。

●35歳・45歳の人

- ・年金加入期間
- ・加入実績に応じた年金額
- ・保険料納付額
- ・加入履歴

・厚生年金の標準報酬月額と保険料納付額の月別状況

・国民年金保険料の納付状況

●58歳の人

- ・年金加入期間
- ・老齢年金の見込額
- ・保険料納付額
- ・加入履歴

・厚生年金の標準報酬月額と保険料納付額の月別状況

・国民年金保険料の納付状況

封書の「ねんきん定期便」には、年金加入記録の確認方法などを詳しく記載したパンフレットや、年金加入記録に「もれ」や「誤り」があった場合に提出する「年金加入記録回答票」が同封さ

「ねんきん定期便」の概要

「ねんきん定期便」は、通常はハガキで送付されていますが、節目年齢と位置づけられる35歳、45歳、58歳の方には、封書で「ねんきん定期便」が送付されています。

なお、平成25年度以後は、この節目年齢のうち58歳が59歳に変更されます。

35歳、45歳および58歳の節目年齢以外の人には、ハガキの「ねんきん定期便」が送付され、次のよう

▼お問い合わせ

「ねんきんダイヤル」

☎0570(05)1165

大和高田年金事務所

☎0745(22)3531

住民課

☎0746(62)0900

保険証の一齐更新のお知らせ

今月下旬に保険証の一齐更新を行います。

新しい保険証は、特定記録郵便（クリーム色の封筒）で世帯主宛てに送りますので、届きましたら、注意事項を必ずお読みください。

次の方の保険証は窓口交付となります

●修学のため村外に住所をおいている学生の方

福祉事務所へ届け出てください。（必要なもの）**在学証明書**又は**学生証の写し、印かん**

※4月から新たに修学のため村外に住所を移される方は、在学証明書の代わりに合格通知書等でも可

●国保税を滞納している方

納税相談（別途通知）を行いますので、**印かん**をご持参のうえ、**財政課**までお越しください。

（注）後期高齢者医療の方の保険証や乳幼児医療・心身障害者医療・ひとり親家庭等医療の方の受給資格証、限度額適用（・標準負担額減額）認定証は、記載された有効期限まで引き続きお使いください。

保険証裏面に「臓器提供意思表示欄」が設けられています

保険証裏面に「臓器提供意思表示欄」が設けられています。詳しくは、保険証に同封のチラシをご覧ください。

有効期限が切れた保険証

各自の責任において処分していただくか、福祉事務所へ返却してください。

70～75歳未満の方へ

いまお持ちの高齢受給者証の一部負担金の割合欄に「2割（平成25年3月31日までは1割）」と記載されている方には、新しい高齢受給者証を保険証と併せてお送りします。

有効期限は平成25年7月31日又は75歳の誕生日の前日までとなっています。

※「3割」と記載されている方は変更ありませんので、いまお持ちの証を引き続きお使いください。

今月は、国保税第**10**期の納期です。納期限は、**4月1日**です。

忘れずに納めましょう!

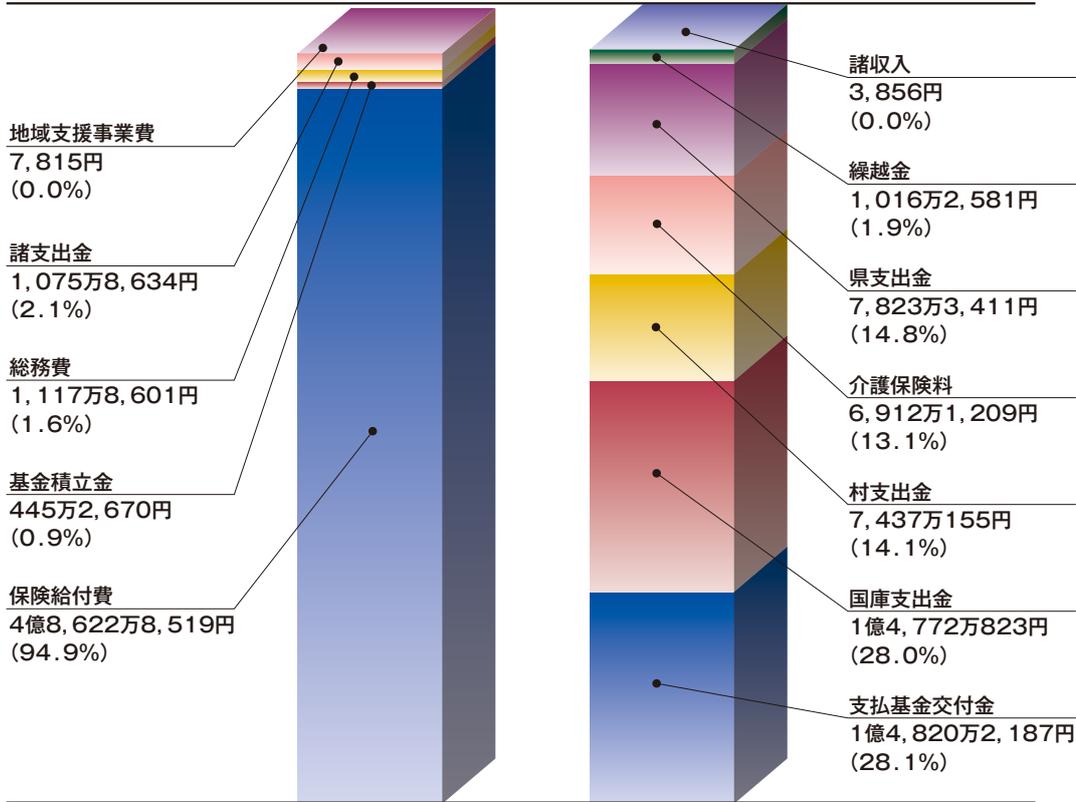
国保税に関することは……………財 政 課 ☎0746-62-0903

保険証や医療に関することは……福祉事務所 ☎0746-62-0901

平成23年度 介護保険会計決算報告

歳出決算総額 5億1,262万円

歳入決算総額 5億2,781万円



介護保険制度が始まって12年が経過しました。着実に老後の安心を支える制度として定着しています。

しかし、村の高齢化率が40.7%（24年3月末現在）と高く、ひとり暮らしの高齢者や要介護認定を受けられる方が多い状況です。

村の平成23年度介護保険特別会計の給付状況は、台風12号豪雨災害で村内での訪問介護やデイサービスの提供が一時休止となったことや、特別養護老人ホームなどの施設利用者が月88人（24年2月現在）と、昨年度同月に比べ7人が減少したことから、保険給付費は平成22年度に比べ3,842万円減少しました。

災害から5か月後の24年2月には、在宅サービス利用者も月201人（24年2月現在）と、23年2月と同人数まで回復しました。

介護保険会計は、昨年度と同様に黒字決算となりました。

悩まないで相談を

「体が不自由になりできない事が増えてきた」「家族の介護が大変になってきた」など、日常生活に不安を感じたら、福祉事務所へ相談しましょう。

要支援・要介護認定者の状況

(単位:人)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
平成20年3月31日現在	57	86	72	55	55	38	28	391
平成21年3月31日現在	53	92	87	73	55	37	35	432
平成22年3月31日現在	71	87	103	70	44	40	36	451
平成23年3月31日現在	74	95	79	69	47	41	38	443

お問い合わせ: 十津川村福祉事務所 介護保険担当 ☎0746(62)0901

人のうごき

(敬称略)

おくやみ

勢古 一子	87歳	2月 1日(武 蔵)
向峯 茂晴	95歳	2月 3日(重 里)
玉田 文夫	91歳	2月 4日(谷 瀬)
泉谷 春雄	90歳	2月 8日(谷 瀬)
榊本 久長	78歳	2月14日(平 谷)
小野 昇	60歳	2月14日(平 谷)
前岡 良幸	71歳	2月21日(平 谷)



珠算検定試験合格者

2月に全国で行われた第168回商工会珠算検定試験合格者は下記のとおりです。(敬称略)

1級	玉置 東成	(平谷小学校)
5級	玉置 真琳	(平谷小学校)
8級	田垣 輝人	(平谷小学校)
8級	西 祥吾	(平谷小学校)



ふれあい共通商品券

お買い物のほか
「慶弔・お見舞いのお礼」
「お中元・お歳暮」
「商品・景品」など
にもご活用できます。

商品券は、下記のマークのあるお店でご利用できます。

お買い求め、お問い合わせは
十津川村商工会

☎0746(62)0132へ



お誕生日 おめでとう!



りむ
田中 莉夢ちゃん(田辺市)
(3月10日生まれ・満3歳)
いつも元気な莉夢ちゃん。
また十津川に遊びにおいで～
祖父…田中 久 祖母…民子
(重里)



ひなた
松葉 陽太ちゃん(上野地)
(3月28日生まれ・満3歳)
これからも明るく元気に
育って行ってね♪
父…勝明 母…加名



十津川高校だより

☎0746(64)0241

つしな
けんこう
NexTotsuko

□学校行事

●OB講演会を開催!

1月23日、本校の卒業生で大字平谷の岡靖久さん(もちもち工房)を講師に招き、「ふるさとの誇りを胸に未来に翔け!」という題で講演いただきました。

●第11回校内マラソン大会を実施!

2月7日、第11回校内マラソン大会を実施。男子は2年生の植野元樹君が、女子は1年生の浦上千佳さんが優勝!

□部活動紹介

●華道部

部員は4人で毎週、未生流笹岡の栗栖直子師範のけいこや家元の学生向け講習会に参加中!作品は、学内だけでなく、役場や警察署、中学校などにも置かせていただいています!ぜひご覧ください。

□クラブ活動報告

●ボランティアクラブ

1月27日に行われた第37回「昴の郷」マラソン大会で、ボランティアクラブの生徒が大会運営のスタッフとして参加しました!!

□同窓会より

2月2日、同窓会村内村外合同幹事会を開催!同窓会役員の改選と創立150周年に向けての同窓会の協力について協議。また、7日に創立150周年記念事業第3回実行委員会を行いました。



O B講演会で講演する岡さん



校内マラソン大会のスタート



十津川中学校に華道部の作品

私の集落の絶景

めざせ100枚の
10枚目



梅の花の香りが届いてきそうな一枚。新緑を迎える上葛川を彩る桃色。

(写真：大字小原・温井利一さん)

村を見つめ直すきっかけに、人と自然とを考えるきっかけに、私のむらの絶景を募集します。

詳しくは総務課の広報担当まで。



あとかき

▶2月の末「フキノトウが咲いてきたねえ」と近所の方に言われて実感した春の足音。見ると畑のまわりにフキノトウがあちらこちらで芽を出していました。

さらに目を凝らすと、そのまわりにも名も知れない草花たちが、小さなつぼみから花開こうと準備の様子。その横を細く流れる寒そうに見えた湧水の中も、カニさんが水草の下からもぞもぞと。

新緑を迎える村の山々のふもとを、50周年を迎えた日本一長い路線を走り続ける奈良交通八木新宮特急バスが今日も行きます。(Y・T)

▶初めて水稻耕作に挑戦しようと、昨年未から水稻耕作の本を読んだり耕作機械を操作してみたりしています。ですが実際に本を読んでも分からないことだらけで、何から手を付けて良いかわからずこの時期まで来てしまいました。本などではこの3月～5月の間が米作りで一番忙しい時期とされています。種籾の選定や苗つけ、田んぼでは、荒おこしや代かきなどやるものがたくさんあります。まずは実践あるのみと思っています。そんなこんなで試行錯誤しながら、進めていかなければなりません。秋に稲穂がたわわに実ることを祈って… (R・M)



●人口 3,850人(-10人)

男性 1,930人(-5人) / 女性 1,920人(-5人)

●世帯数 1,915世帯(-3世帯)

【平成25年3月1日現在 ()は前月比】